

文化女子大学学生を対象とした環境意識と行動に関する調査

久木ゼミ 山本 亜希



はじめに

近年、新聞やニュースなど様々な地球環境問題が取り上げられ社会問題となっている。また私たちの身近にも地球環境問題の影響と考えられる現象が増えつつある。

地球環境問題の解決・改善のためには、国や企業の取り組みだけではなく、国民一人一人が普段の生活の中で行動する必要がある。そこで、本研究では文化女子大学学生の環境意識と行動を調査し、地球環境問題改善にむけて出来ることについて考察する。

研究方法

研究は下記の流れで実施した。

研究テーマの決定

ヨーロッパには古いものを大切にする文化が根付いている。国民全員で地球環境問題へ取り組みをしている国もあるが、日本ではCO₂削減量も減らずに増えている現状がわかった。

文献調査

アンケート作成

日本でどのくらいの人々が地球環境問題を意識し、行動しているかの現状を知るためにアンケート調査を行うこととした。

プレアンケート調査

本学学生（住環境学科1年、建築デザインコース2～4年）を対象とした。

本アンケート調査

アンケート内容は環境問題への関心、ゴミ分別の現状など、計44項目とした。

アンケートの回収、分析

なお、アンケートの回収部数は111部である。この結果を単純集計し、学生の環境意識や行動について分析を行った。さらにクロス集計を行い、環境知識と環境行動について考察を進めた。



アンケート調査の結果

「環境問題で、自分が一番関心のあるものは何か」という質問の結果を図1に示す。

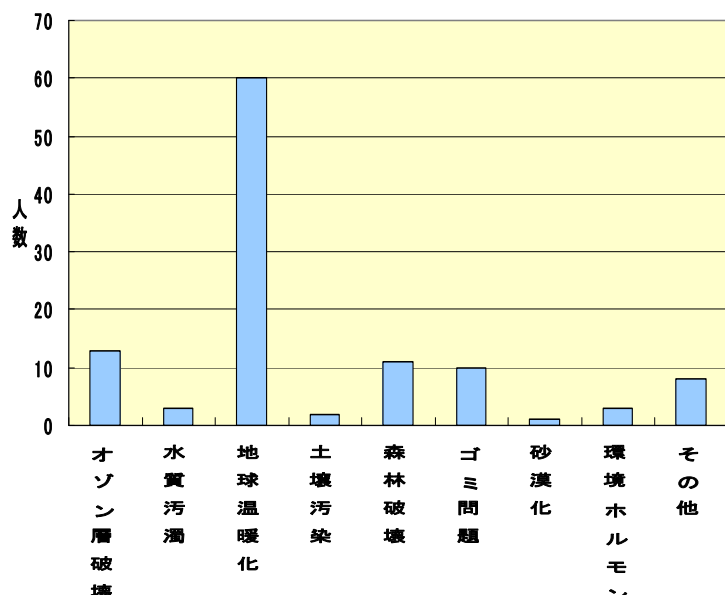


図1 環境問題で、自分が一番関心のあるもの



地球環境問題の影響

地球温暖化による影響

豪雨や台風・ハリケーンの増加、記録的な大雪などの異常気象

酸性雨による影響

目・のど・鼻に刺激を感じ、髪の色の変化など

オゾン層破壊による影響

皮膚ガン、白内障、角膜炎など
穀物などの農業生産の減少

森林破壊の影響

野生動物種の絶滅。二酸化炭素の増加により地球温暖化になり海面の上昇、人間社会や生態系を変化や土砂崩れ、砂漠化など

環境ホルモンの影響

知能低下・学力障害・注意力欠如・ストレスへの過剰反応・拒食症・強迫神経症・様々な不安症・鬱状態・アレルギーなど

ダイオキシンの影響

アトピー性皮膚炎の増加、子宮内膜症を引き起こす、肝ガンの増加を促す、子どもが作れなくなる、身体に障害が生じる

水質汚染の影響

水俣病・イタイイタイ病などの被害

このように地球環境問題は決して他人事ではなく、私たちの身体に悪影響を及ぼすとても身近な問題なのです！！

次に、1番多くの人々が関心を持っている地球温暖化に関する認知度と関心度について、「地球温暖化という言葉聞いたことがあるか」と質問した結果、大部分の人が「ある」と回答した。

さらに「地球温暖化にどの程度の関心を持っているか」と質問した結果を図2に示す。

約半分の人が地球温暖化に「かなり関心がある」「関心がある」と回答したが、約40%の人は「どちらでもない」と回答している。

次に、「地球温暖化の原因を知っているか」という質問の結果を図3に示す。90%の人が「知っている」と回答した。

さらに環境への関心度合いと環境行動についての比較を行うため、実行している環境行動について、地球環境に「かなり関心がある」「関心がある」と回答した人と、「関心がない」「まったく関心がない」と回答した人に分けてクロス集計を行った。結果を図4、図5に示す。

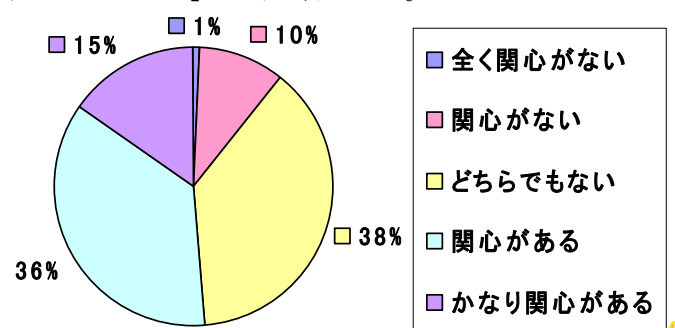


図2 地球温暖化の関心

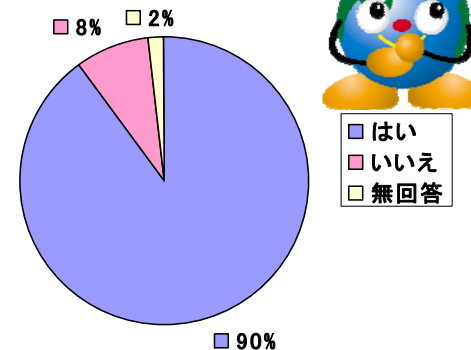


図3 地球温暖化の原因を知っているか

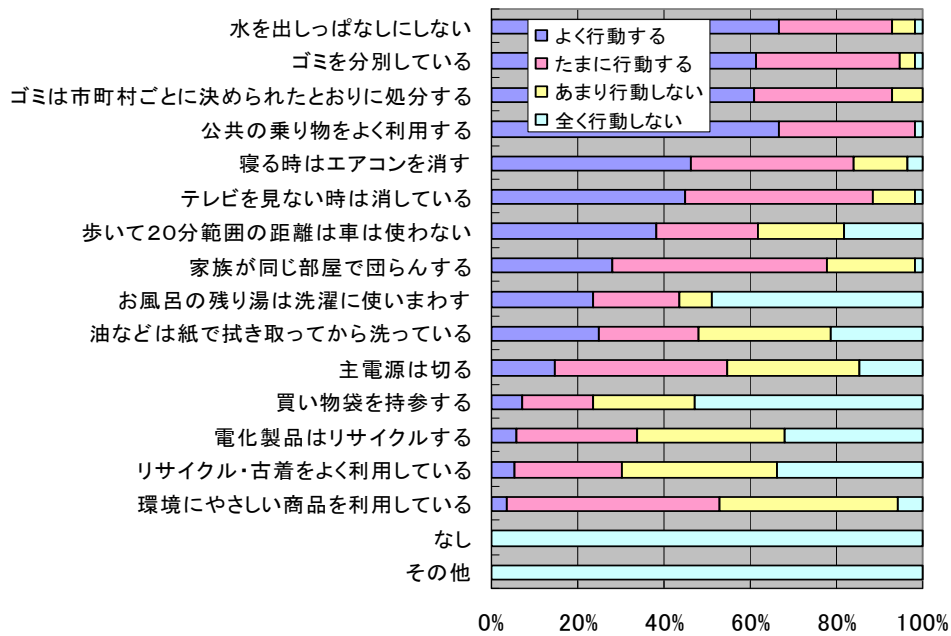


図4 地球温暖化に関心がある人の行動

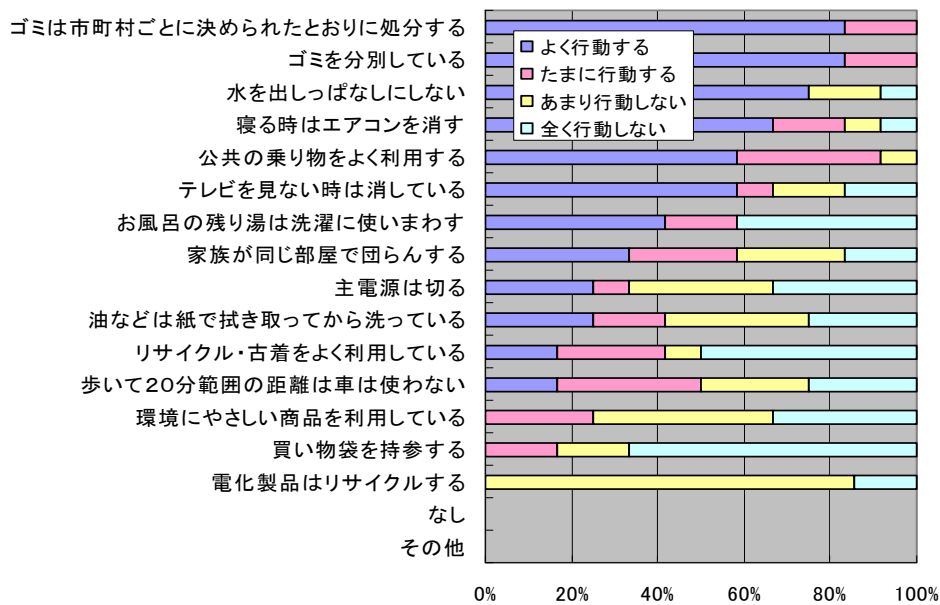


図5 地球温暖化に関心がない人の行動

両者とも行動に大きな違いはないが、地球温暖化に関心がない人の方がよく行動している割合が高い。これは自己評価なので、実際はわからない。なお、上位項目は同じであり、全体的に日常生活での行動やエネルギーに関する行動の実施率が高くなっている。

また知識に関する設問とのクロス集計を行った結果、地球温暖化に関心がある人の方が、全体的に知識も意識も高いが、行動は必ずしも伴わない結果となった。

■ 二酸化炭素を減らせる環境行動の例

- () 内の数値は、文化女子大学学生の実施率
- ・冷暖房を1度控える
- ・コンセントをこまめに抜く
- ・蛇口をこまめにしめる (90%)
- ・エコ製品を使用する (42%)
- ・買い物袋を持参する (22%)
- ・公共の乗り物や自転車を利用する (87%)
- ・アイドリングをやめる
- ・朝シャンをやめる
- ・いらぬものは買わない (ゴミを半減する)

文化女子大学の学生の
ゴミ分別の現状

文化女子大学のゴミ箱(写真1)について、数・分別の種類(可燃物、不燃物、空缶・空瓶の3種)・デザインの3つについてそれぞれ5段階評価を得た。結果を図6に示す。

文化女子大学のゴミ箱に対する印象は「どちらでもない」という意見が多く、問題点を感じている人は少ない。

次に「文化女子大学の学生



写真1 ゴミ箱の写真

で分別を正しくしている人はどのくらいいるか」という質問に対する結果を図7に示す。

半数以上は分別してゴミを捨てていると考えられている。しかし、実施には分別方法が異なるモノを1つの袋にまとめて捨てている光景をよく見かける。そこで実際に「分別せずにゴミを捨てたことがあるか」について聞いた結果を図8に示す。

ゴミの分別状況は、学内・学外に関係なく、半数以上が分別しない現状がわかった。一ヶ月に一度未満という回答は1/4程度であり、一週間に一度以上の回答者も1/4程度である。

分別せずに捨てた理由について質問した。結果を図9に示す。

「分別の仕方がわからなかった」「時間がなかった」「面倒だった」という理由が多かった。「面倒である」といった回答については、1人1人が自覚をもって行動する必要があると考えるが、ゴミ箱のデザイン等に工夫をし、「分別の仕方がわからなかった」という回答者を減らす工夫も必要である。

なお、写真2は文化女子大学のゴミ袋を撮影したものである。ゴミ箱は可燃物・不燃物・空缶・空瓶と分別されているが、全く分別されていないことがわかる。何人かの清掃員の方にヒアリングを行い、話を伺った結果、やはり全然分別されていないため、再分別していることがわかった。

ゴミの分別状況調査では学内・学外問わず、個人差が大きい結果となった。一人ひとりのごみ問題への意識が重要であり、居住地での分別方法の知識だけでは改善することは難しいと考えられる。

おわりに

文化女子大学学生の環境意識と行動を調査した結果、意識はあるものの行動が伴わない人が少なくない結果となった。今後は環境行動を具体的に実施していく必要がある。

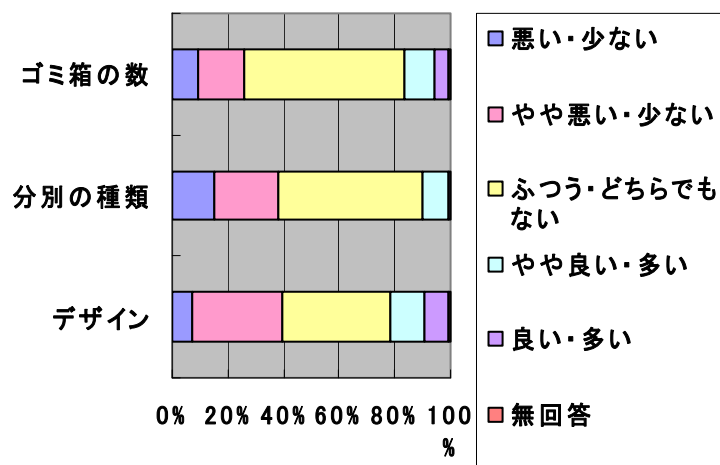


図6 文化女子大学のゴミ箱評価

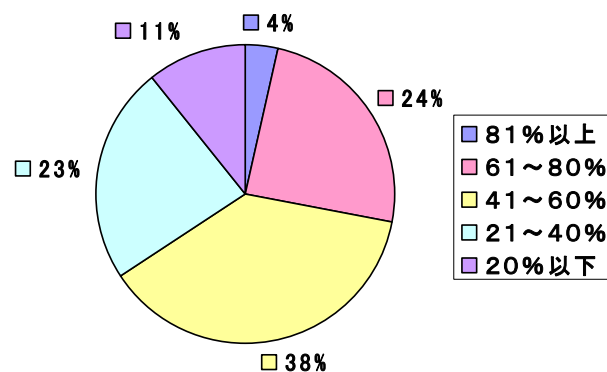


図7 分別をしている人はどのくらいいると思うか

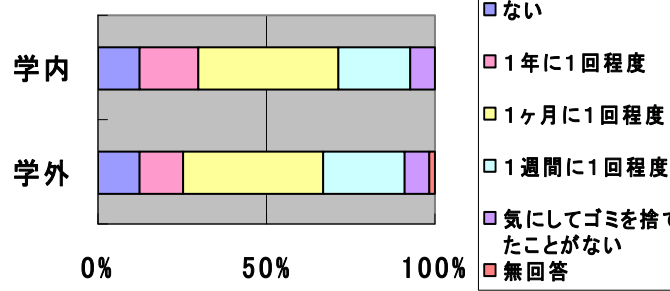


図8 分別せずに捨てる頻度

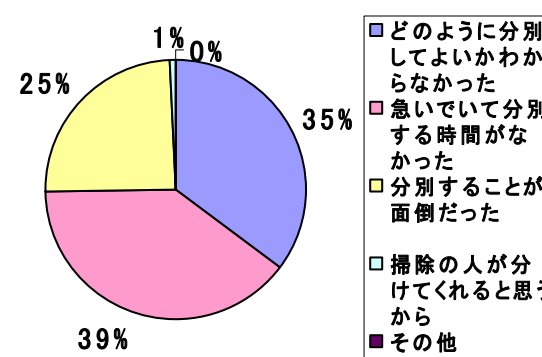


図9 分別せずに捨てた理由



写真2 学内のゴミの現状

